



News Letter



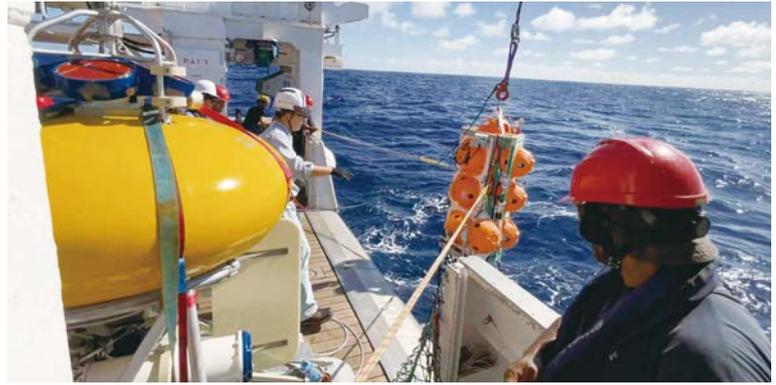
ニューカレドニアに到着後、日本から輸送した機材を取り出し、バッテリーを並べて充電、環境DNA採集装置の調整、ガラス球にカメラを組み込み、江戸っ子1号のユニットを組み立てる。

江戸っ子1号365型、ニューカレドニア沖の海底観測に参加

海底観測プラットフォーム「江戸っ子1号」が日仏共同による国際プロジェクトでの観測機材に採用されました。ニューカレドニア沖に設置され、2023年5月から2024年10月までの長期観測を開始しました。江戸っ子1号365型、初めての南太平洋への遠征です。

今回の日仏共同調査が実現した経緯には、SIP海洋プログラムが進めてきた国際展開の活動が役割を果たしました。SIP海洋プログラムでは、2015年にフランス大使館と共催して深海環境のモニタリングをテーマにした国際ワークショップを実施しました。これがきっかけとなりSIPの環境調査航海にフランスの研究者が参加するなどの進展がありました。

2018年の第27回日仏海洋開発専門部会の開催に合わせたワークショップにおいて、共同調査の実施に向けた検討が始まりました。2019年にはニューカレドニアにて開催された第1回日仏包括的海洋対話でのサイドイベントとして海洋科学ワークショップを実施し、そこで南太平洋での共同調査を実施することが合意されました。日本からの提案には、SIPで開発した江戸っ子1号を利用することが含まれていました。その後のコロナ流行によりリモート会議での情報共有と準備などが続きましたが、計画が確定して2023年5月にニューカレドニア沖での長期観測を始めることができました。



フランスの調査船「R/V Antea」の甲板に準備が完了した江戸っ子1号365型を搭載し、目的の海山頂上に向けて投入、長期の観測を開始した。

江戸っ子1号365型は、SIP海洋プログラムによる南鳥島沖での長期観測で2年間にわたる実績がある観測機材です。今回の長期観測では、江戸っ子1号のビデオ観察、ハイドロフォンによる生物音響の記録、環境DNAの自動採取装置などによる生物データの収集が計画され、観測活動は「国連海洋科学10年」のリストにも登録されています。

SIP第3期では、開発してきた環境モニタリングの技術普及と国際展開を目指しています。ニューカレドニア沖での日仏共同調査は、環境モニタリング技術を実践する場であるとともに、海洋の生物多様性データの収集にも貢献できる機会と考えてます。

参考資料

https://www.jamstec.go.jp/j/about/press_release/20230516_2/

<https://mailchi.mp/3d93a8037714/scinobs-new-caledonia-newsletter1>

<https://en.ifremer.fr/Latest-news/In-South-Pacific-French-and-Japanese-scientists-develop-a-new-generation-of-underwater-observatories>

